

# ユニセフの予防接種事業

## — ワクチンひとつで守れる命がある —

『世界子供白書 2008』の報告にあるように、5歳未満児死亡率を削減するためには、継続的に保健活動を普及させていくことが大切です。

予防接種事業は長年にわたるユニセフの活動の中で、もっとも成果をあげてきた活動のひとつです。



©UNICEF/HQ06-1800/Josh Estey  
はしかの予防接種を受けるインドネシアの子ども

### ●● 予防接種で命を守る ●●

予防接種によって、過去 20 年間に推定 2,000 万人以上の子どもの命を守ることができました。ユニセフは、開発途上国の子どもたちのための予防接種用ワクチンを調達し、大規模な予防接種事業を推進しています。

ユニセフは、はしか、ポリオ、結核、破傷風、百日咳、ジフテリア、これら 6 種類の病気に対する予防接種を各国で行っています。しかし、予防接種事業が前進する一方で、未だ年間 140 万人の 5 歳未満の子どもたちが予防接種で防げたはずの病気で命を失っています。

ユニセフは、予防接種率を限りなく 100% に近づけるため、ワクチンや必要な器材の提供、保健所などの施設の整備、保健員のトレーニングやサービスの向上、住民への啓発などの努力を続けています。

### 予防接種の実現に必要なシステム

ユニセフは世界最大のワクチン供給者です。2006 年だけでも 24 億回分のポリオワクチンや、1 億 8100 万回分のはしかワクチンなど、総額 5 億 6000 万米ドル分の予防接種用ワクチンを世界中に届けました。

予防接種の実施にはワクチンを低温で保ち、保管、輸送するためのコールドチェーンとよばれるシステムが必要です。そのため、コミュニティの保健センターには冷蔵庫を、保健員が遠く離れた村へワクチンを運ぶためにはアイスボックスをそなえています。



©UNICEF/HQ03-0533/Thomas Kelly  
ワクチンの入ったアイスボックスの輸送

### 予防接種要員の養成

ユニセフが各国で実施する全国予防接種デーは、何万人もの保健員とボランティアによって支えられています。彼らにいかにか正しい知識と技術を伝えるかが、キャンペーンの成否を左右します。

予防接種は母子保健という大きな枠組みのなかに位置付けられ、ユニセフは、各国政府、地域、NGO と協力しながら、最大限の効果をあげようと努力しています。

### ●● 予防接種プラス ●●

#### 予防接種を子どもたちの命を守るとりでにするための活動

ユニセフが予防接種の場を利用して総合的に子どもの命を守る活動を予防接種プラスといいます。

そのいくつかの例を見てみましょう。

#### ビタミン A の補給

予防接種を終えた子どもへは、一緒にビタミン A の補給を行います。カプセルを切って、ビタミン A を口の中にたらしめます。半年に 1 回、このビタミン A 補給を受けるだけで、子どもの免疫力は格段に向上します。肺炎や下痢などの感染症にかかりにくくし、失明などビタミン A 欠乏症による目の疾患を防ぐことにもつながります。



©UNICEF/HQ05-0148/ Jim Holmes  
ビタミン A の投与を受ける子ども

#### 母親向けの料理教室開催

子どもにはどんな栄養が必要なのか、どのような食べ物をうまく組み合わせれば栄養不良を防ぐことができるのか、実際に役立つ方法を母親たちに教えます。母親たちの意識が変わり、栄養不良を改善することができれば、子どもの健康はさらに向上します。

#### 寄生虫の駆除やマラリア対策

清潔でない水の使用やトイレが整備されていないことなどが原因でかかる寄生虫病は、子どもの栄養不良の大きな原因のひとつです。

薬の服用で駆除できるものも多いので、予防接種時に、寄生虫の駆除薬を与えることもあります。また、蚊を媒介して発生するマラリアを防ぐため、蚊帳の配布が一緒に行われることもあります。



©UNICEF/HQ06-0726/Bruno Brioni  
マラリアを防ぐための殺虫剤処理を施した蚊帳の中で眠る子ども

予防接種事業は災害や紛争時の緊急支援とは異なり、その必要性を住民に理解させたり、予防接種が有効に実施されるための環境づくりをするなど、地道で時間のかかる仕事です。

世界の子どもたちすべてが予防接種を受けることができるようになれば、年間 140 万人以上の幼い命を確実に守ることができるのです。

5 歳未満児死亡率の削減を目標とする「ミレニアム開発目標」の 4 を達成するために、ユニセフはこれからもこの事業を積極的に続けていきます。